

## えがおをとどけたい

小野<sup>おの</sup> 柊斗<sup>しゅうと</sup>

ほくには、しずおかにだいすきなばあばがいます。まいとし、なつになると、ほくはばあばにあいにしずおかへいきま

す。

しずおかのいえのうらやまには、ひろいはたけがあります。そこには、とまとやきゅうり、きゃべつにそらまめ、それからびつくりするくらいおおきなだいこんがあります。そのはたけは、にねんまえに、じいじがはじめたはたけです。おみせでうっているやさいは、きれいなかたちをしているけれど、じいじのやさいはみんなふしぎなかたちをしています。

「みてごらん。とげとげがたくさんのきゅうりだろ。とまとも、あかだけじゃなくて、みどりいろから、だんだんまっつかにじゅくしていくんだぞ。」

じいじのつくるやさいは、いろんなかたちのびかびかのほうせきみたいです。だつて、えいようがたつぷりはいつているからね。

じいじがはたけをはじめたのは、ばあばのためです。ばあばは、からだがよわくてあまりごはんをたべられませんが、

「ばあば、はたけからとってきたやさいだよ。いっしょにたべようね。」

ほくがいうと、ばあばはにこにこおひさまみたいにわらいま

す。ほくは、そのかおがだいすきです。

ていっしょにねます。ばあばのからだは、ほかほかあったかくて、みみをすますと、

「とくん、とくん。」

と、いのちのおとがします。そのおとをきくと、ほくはあんしんしてねむれます。

ほくがまだ、ままのおなかにいたとき、のうのびようきで、ばあばはたおれました。きゅうきゅうしやでびよういんにはこばれて、「しゅうちゅうちりょうしつ」というへやにずっといたそうです。いま、ほくがばあばとわらったり、ぎゅっとだきしめてもらったりできるのは、あたりまえのことなんかじゃないんだね。

「ばあばは、びようきとたたかかって、にげなかった。がんばって、かっただね。まけないで、いてくれて、ありがとう。」

ことしも、しずおかにいってばあばのふとんにもぐつてばあばとたくさんおはなしをするんだ。

「しろうがつこうは、たのしいよ。おともだちもたくさんできだよ。」

ばあばに、おはなしをして、ばあばのいのちのおとにみみをすませて、ねむるんだ。そうすれば、このよでいちばんしあわせなゆめがみられるんだよ。

ばあば、ずつといっしょにいたいな。ほくがこんどは、ばあばにたくさんのげんきをあげるよ。